

【都道府県知事が定める新品種の導入】

No.	品目名	品種名	品種の明確な特性や有効性
花き1	スイートピー	ムジカクリムゾン	巻きひげのない花色が濃赤色の省力性品種
花き2	スイートピー	ムジカラベンダー	巻きひげのない花色が浅青味色の省力性品種
花き3	スイートピー	ムジカスカーレット	巻きひげのない花色が明紫赤色の省力性品種
花き4	スイートピー	恋式部	新奇性のある花卉が複色(黄白+濃紫ピンク)品種
花き5	スイートピー	青式部	新奇性のある花卉が複色(濃赤味紫+浅青紫)で高日持ち性品種
花き6	スイートピー	みやびのかなで	日持ち性の高い暗赤褐色品種
花き7	スイートピー	真白麻呂	日持ち性が高い黄白色品種
花き8	デルフィニウム	デネブ	早生で茎が堅くコンパクトな草姿の緑白色品種
花き9	デルフィニウム	ブルーオリオン	2L率が高く、ロゼット性の低い濃紫青色品種
花き10	デルフィニウム	ペガサス	発芽率が高く、ロゼット性が低い黄白色品種
花き11	デルフィニウム	ライラ	がく片が散りにくく、茎の堅い淡紫桃色品種
花き12	キク	国富神馬(選抜新系統)	市販の「神馬」より花卉数が多く、花径が大きい。また、草姿バランスに優れ、ボリューム感があり、品質のばらつきが少ない系統
茶1	茶	さきみどり	多収で色沢・水色に優れた品種
茶2	茶	はるもえぎ	香味はすっきりとし、色沢に優れた品種
茶3	茶	みやまかおり	多収で水色、香気に優れた極晩生品種
茶4	茶	ゆめかおり	耐寒性に優れ、萎凋させると良好な花香が特徴の品種
茶5	茶	はるのなごり	炭疽病、輪斑病に強く、多収の品種 長時間の萎凋により良好な花香が発揚する
茶6	茶	なごみゆたか	製茶品質に優れ、特に釜炒り茶にすると甘い香りとすっきりとしたのどごしが感じられる品種
茶7	茶	きらり31	耐寒性に優れた早生品種で、被覆することで品質が向上し、かぶせ茶や玉露としても品質に優れる
茶8	茶	はると34	摘採期が「やぶきた」より7日程度早い極早生品種であり、煎茶として鮮緑色で色沢に優れ、釜炒り茶でも良質な品種
茶9	茶	暖心37	炭疽病、輪斑病、クワシロカイガラムシに強く、煎茶、釜炒り茶として品質に優れる品種 粉末茶としての適性も高い
果樹1	きんかん	宮崎夢丸	三倍体で、果実は完全種子ができず既存品種に比べ小さく、高糖度で低酸である。
果樹2	きんかん	宮崎王丸	果実が大玉で、2L級果以上の比率が高い。

※これまでその品種・技術を入れたことのない生産者が対象となる。
 ※茶・及び果樹については、改植関連事業の取組者は対象外となる。

【都道府県知事が定める新技術の導入】

No.	品目名	技術名	技術の概要及び有効性	提出資料	県として導入を図る理由	根拠	使用する機械・資材等
野菜1	さといも (サトイモ疫病対策)	①罹病株の残さ分解 ②種芋の水選別、洗浄、消毒 ③効果の高い薬剤の散布	①収穫後のほ場に、たい肥や分解促進剤、石灰窒素を投入後、耕耘して残さを分解し、発生源を減少。 ②種いもの表面や土に付着している菌を落とし、発生源を減少。水選別により菌が深部まで入り劣化・腐敗した芋を選別して除去。選別後は、消毒剤で消毒 ③防除効果の高い登録農薬の散布により、サトイモ疫病のまん延を防止。	作業日誌 資材の伝票	・サトイモ疫病は、平成26年の初発確認後、本県の生産面積、産出額ともに大きく減少した重要病害であり、対策の徹底が必要 ・本県は、同様の病害が発生している鹿児島県・愛媛県及び国研究機関と共にコンソーシアムを形成し、対策を協議し、マニュアルを作成。今回導入する技術は、このコンソーシアムの研究に基づく技術。	・サトイモ疫病対策マニュアル	・分解促進剤 (たい肥、石灰窒素、分解ヘルパー) ・土壌消毒剤 (クオルピクリン、パスアミド、キルパー) ・種いも消毒剤 (ベンレートT水和剤20、トップジンM水和剤) ・農薬(ジーファイン水和剤、アミスター20フロアブル、ダイナモ顆粒水和剤、ペンコゼブ水和剤) ※資材・農薬は、選択して使用。 ①、②、③の取組を全て実施する場合が対象 ※ただし、事業期間内に指定する技術の一つ以上取り組んでいれば、新技術を実施していると見なす。
野菜2	かんしょ (サツマイモ基腐病)	①罹病株の残さ分解 ②育苗床・本ぼの消毒 ③種いも・苗の消毒 ④薬剤の散布	①収穫後のほ場に、たい肥や分解促進剤を投入後、耕耘して残さを分解し、発生源を減少。 ②育苗床、本ぼの土壌消毒で、苗床の病原菌が減少。 ③種いも・苗消毒で発症を抑制。 ④Zボルドー、ジーファイン水和剤の散布により、病害のまん延を防止。	作業日誌 資材の伝票	・サツマイモ基腐病は、平成30年12月に初発を確認。翌、令和元年には、県内最大の食用かんしょ産地において、産地の存続を危惧する甚大な被害が発生。重要病害であり、対策の徹底が必要。 ・本県は、鹿児島県、国研究機関と共に対策を協議。 ・今回申請する技術は、この共同研究に基づく技術である	・サツマイモ基腐病対策パンフレット	・分解促進剤 (たい肥、石灰窒素、分解ヘルパー) ・土壌消毒剤 (クオルピクリン、パスアミド微粒剤、キルパー) ・種いも・苗の消毒剤 (ベンレート水和剤、ベンレートT水和剤20、トップジンM水和剤) ・農薬(Zボルドー、ジーファイン水和剤) ※資材・農薬は、選択して使用。 ①、②、③、④の取組を全て実施する場合が対象 ※ただし、事業期間内に指定する技術の一つ以上取り組んでいれば、新技術を実施していると見なす。
野菜3	きゅうり、ピーマン、 トマト、いちご、なす	環境モニタリング及び炭酸ガス施用	ハウス内環境をモニタリングし、炭酸ガスを400ppm以上の濃度で施用する。同時に、加温機、自動開閉装置により、光合成の促進に適した環境にすることにより収量が増加。	機器類の伝票	施設園芸において単位収量の向上が必要であり、有効な技術であるため。	・宮崎県における炭酸ガス施用の手引き	炭酸ガス発生装置、環境モニタリング装置 炭酸ガス発生装置及び環境モニタリング装置を導入するとともに、光合成促進に適した環境が整っている場合が対象

No.	品目名	技術名	技術の概要及び有効性	提出資料	県として導入を図る理由	根拠	使用する機械・資材等
花き1	デルフィニウム	・種子の低温処理(シードバナーゼーション)技術	・種子冷蔵により、成苗率が向上する。	作業日誌、実施写真	・促成栽培では夏期に育苗するが、高温による生育不良が発生し課題となっている。種子冷蔵による低温処理は簡易で導入しやすく、成苗率向上の効果が高い。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30)	
花き2	スイートピー	・細霧冷房による高温対策技術	・細霧冷房稼働により、ハウス内温度を2～3℃降温する	作業日誌、実施写真	・近年の気候変動による高温障害が多発しており、高温対策は喫緊の課題となっている。細霧冷房装置は降温効果が高く、自力施工が可能で安価であり、年内安定出荷が図られる。	・宮崎県営農振興協議会花き部会展示ほ実績(H30) ・細霧冷房導入マニュアル	
花き3	ランタンキュラス	・日長延長による開花促進技術	・植物日長約13時間での日長延長処理を行うと切り花本数が増加する	作業日誌、実施写真	・ランタンキュラスは3月に出荷ピークを迎えるが、この時期は低単価であり、労力も集中することから、開花の前進化が課題となっている。日長延長処理により、開花時期の前進化が可能となり、収量も増加することから、労力分散と安定した収益の確保が図られる。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H29)	
花き4	ホオズキ	・実生苗利用によるウイルス伝搬防止技術	・実生栽培によりウイルス病への感染が抑制される	作業日誌、実施写真	・ウイルス病感染被害による収量・品質の低下が課題となっている。これまで地下茎苗を利用してきたが、実生苗利用により、ウイルス伝搬を防止し、収量・品質の向上を図る。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H28) ・ホオズキの実生苗由来地下茎増殖マニュアル	
花き5	ベビーハンズ	・性フェロモン剤によるヨトウムシに対する防除技術	・性フェロモン剤の利用により、ハスモンヨトウ被害が抑制される。また、IPMの一環として、化学的防除のみでなく、生物的防除の組合せにより、防除効果が向上するとともに、作業の省力化も図られる。	作業日誌、実施写真、性フェロモン剤購入伝票	・ヨトウムシ類の被害による収量・品質の低下が課題となっている。性フェロモン剤の利用によるヨトウムシ類の交尾阻害は非常に有効な技術。	・宮崎県営農振興協議会花き部会展示ほ実績(H29)	
花き6	デルフィニウム	・ロゼット回避作型における密植栽培	・ロゼット回避出荷作型における栽植様式は13.5cm4条植えで収益が向上する	作業日誌、実施写真	・13.5cm4条植えでは、従来の20cm2条植えと比較し、農業所得が約1.5倍増加するため、さらなる所得向上が図られる。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30)	

No.	品目名	技術名	技術の概要及び有効性	提出資料	県として導入を図る理由	根拠	使用する機械・資材等
茶1	茶	・スプリンクラー散水によるカンザワハダニの防除法	スプリンクラー散水により茶樹幹内の湿度を上げることで、カンザワハダニの発生を抑制することができる	作業日誌、実施写真	十分な防除効果を期待することができる上、防除経費を抑制することができ、環境汚染などの心配もないため	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H22年)	ただし、当該取組で初めてスプリンクラー導入又は使用する生産者のみ対象
茶2	茶	・スプリンクラー散水による秋冬期防霜	秋・冬期にスプリンクラーで散水することにより、茶芽の凍害を軽減することができる	作業日誌、実施写真	一番茶の品質と収量に大きな影響を与える、茶芽つぶれなどの被害を回避することができるため	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H22年)	ただし、当該取組で初めてスプリンクラー導入又は使用する生産者のみ対象
茶3	茶	・少量農業散布機による効果的防除	散布機器の改良などにより、慣行より少量の農薬量で十分な防除効果を得ることができる	作業日誌、実施写真	十分な防除効果を得ながら、経費と労働時間を削減することができるため	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30年)	ただし、少量農業散布機を初めて導入又は、散布機の改良を行う茶生産者のみ対象
茶4	茶	・高遮光資材の摘採前短期被覆による生葉品質向上	摘採直前に短期間被覆処理をすることで、アミノ酸の増産を促し茶品質を向上させることができる	作業日誌、実施写真	茶品質を向上させることで、茶単価の向上が見込めるなど、有利販売につながるため	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30年)	ただし、高遮光資材を初めて導入する茶生産者のみ対象
茶5	茶	・一番茶萌芽前の散水や液肥施用による生葉品質向上	一番茶摘採前に散水や液肥を散布することで、茶生葉の品質を向上させることができる	作業日誌、実施写真	茶品質を向上させることで、茶単価の向上が見込めるなど、有利販売につながるため	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30年)	ただし、スプリンクラー又は一番茶萌芽前散布用の液肥を初めて導入する茶生産者のみ対象
茶6	茶	・茶におけるサイクロン式異物除去装置を用いたカンザワハダニの防除効果	化学農薬を使わずにカンザワハダニを防除することができる	作業日誌、実施写真	十分な防除効果を期待することができる上、防除経費を抑制することができ、環境汚染などの心配もないため	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(R1年)	ただし、当該取組で、サイクロン式異物除去装置を初めて導入又は、使用する茶生産者のみ対象

No.	品目名	技術名	技術の概要及び有効性	提出資料	県として導入を図る理由	根拠	使用する機械・資材等
果樹1	マンゴー (施設栽培)	・除湿によるマンゴーのヤニ果及び収穫後の炭そ病の発生抑制	・ヒートポンプの除湿機能で満開50日以降の早朝の湿度を80%以下にすると、ヤニ果や炭そ病の発生が抑制される。	作業日誌、ヒートポンプの稼働については検針票、実施写真	・収穫期後期に発生が増加する炭そ病等による品質低下を防止し、青果率を向上させるため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H23)	
果樹2	マンゴー (施設栽培)	・秋期の夜間冷房がマンゴーの出蕾に及ぼす影響(出蕾促進技術)	・9月下旬から11月下旬までヒートポンプによる夜間冷房を行い夜温を外気温より2~5℃低い環境に保つと出蕾が安定する。	作業日誌、ヒートポンプの稼働については検針票、実施写真	・新梢伸長後に、夜間冷房処理を実施し花芽の充実を促すことで、安定着果につながるため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H24)	
果樹3	マンゴー (施設栽培)	・マンゴー軸腐病の発生軽減に有効な収穫回数	・収穫を日に複数回行うことで軸腐病の発生が軽減される。	作業日誌(収穫作業の時間を明記)、実施写真	・軸腐病の感染リスクを軽減する方法として、簡易的かつ効果的なため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H26)	
果樹4	ライチ (施設栽培)	・ライチ品種「クエイメイ」及び「チャカバット」の着花安定には秋芽の除葉及び切除が効果的である。	・ライチ品種「クエイメイ」及び「チャカバット」は、10月下旬以降に発生した緑化していない新梢を、11月中旬に除葉もしくは切除を行うと、出蕾枝率が高くなる。	作業日誌、実施写真	・当県が推進する主力品種であるチャカバット等の安定生産技術を確立するため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H25)	
果樹5	ライチ (施設栽培)	・ライチ「チャカバット」及び「ノーマイチャー」は花穂整形により結果数が多くなる。	・ライチ「チャカバット」及び「ノーマイチャー」は、開花前に花穂整形すると無処理に比べ結果数が多くなる。	作業日誌、実施写真	・当県が推進する主力品種であるチャカバット等の安定生産技術を確立するため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H27)	
果樹6	きんかん (「宮崎丸」:施設栽培)	・大玉きんかん「宮崎丸」成木の品質・収量向上のための少摘果技術	・宮崎丸は、ネイハキンカンの倍(結果枝10cmあたり2果)の着果量でも同程度の階級・収量が得られる。	作業日誌、実施写真	・従来のネイハキンカンと比較して、収量を維持しつつ摘果作業にかかる時間が削減できるため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30)	
果樹7	きんかん (「宮崎夢丸」:施設栽培)	・種なしキンカン「宮崎夢丸」の結束バンド締付け処理による結果率向上	・結果前年に結束バンドを主幹部または主枝部に処理することで1番果の結果率が向上する。	作業日誌、資材購入伝票・領収書、実施写真	・若木の段階から収穫できれば、未収益期間を短縮させることが可能であるため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(R1)	
果樹8	みかん (極早生温州:露地栽培)	・低濃度ジベレリンとマシン油乳剤混用散布による温州ミカンの花芽抑制法	・ジベレリン 2.5ppmをマシン油乳剤60~80倍に混用して、12月上旬に散布することで、翌春の直花を減らすことができる。	作業日誌、農業については、購入伝票・領収書	・低濃度でも効果が得られることから、花芽抑制による隔年結果対策として有効であるため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H28)	使用可能薬剤は「アタックオイル」のみ。
果樹9	ゆず (露地栽培)	・低濃度ジベレリンとマシン油乳剤混用散布によるユズの花芽抑制法	・収穫後の12月にジベレリン2.5ppmをマシン油乳剤に混用して散布することで翌春の直花を減らすことができる。	作業日誌、農業については、購入伝票・領収書	・低濃度でも効果が得られることから、花芽抑制による隔年結果対策として有効であるため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H29)	使用可能薬剤は「アタックオイル」のみ。
果樹10	日向夏 (露地栽培)	・「口之津41号」混植日向夏園では自然受粉で少核果実生産ができ収量は約3t/10aとなる。	・「口之津41号」と「早生日向夏」を1:3の比率で混植すると、自然受粉でも少核果実生産が可能	作業日誌、実施写真、植栽図	・混植することで、人工授粉にかかる労力を軽減しつつ少核果実生産が可能となるため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H27)	

No.	品目名	技術名	技術の概要及び有効性	提出資料	県として導入を図る理由	根拠	使用する機械・資材等
果樹11	うめ (露茜・露地栽培)	・ウメ「南高」の徒長枝は「露茜」の受粉樹として利用できる。	・南高の徒長枝は、通常より開花が遅くなり露茜の開花期に重なるため、受粉樹として利用できる。	作業日誌、実施写真(剪定時、開花期)	・暖冬により、南高の開花時期が早まる場合があるため、暖冬時には徒長枝を残し遅れ花を露茜の受粉用に確保するため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(R1)	
果樹12	くり (「筑波」:露地栽培)	・くり「筑波」における二次伸長枝の有効利用	・充実した2次伸長枝を用いて雌花を着生させることで、着穂数が増加する。	作業日誌、実施写真	・温暖化に対応した整枝方法として、安定生産を実現するため。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30)	
果樹13	ぶどう (「ゴルビー」:施設栽培、露地栽培)	・ブドウ「ゴルビー」の果皮着色および糖度向上のための連年環状剥皮処理技術	・満開45日後に主幹部へ2cm程度の環状剥皮処理を行うことで着色及び糖度の向上が図られ、翌年の花穂着生への影響はみられない。	作業日誌、実施写真	・産地で赤系ぶどうの着色不良が見られることから着色向上により品質向上を図るため。 ・環状剥皮処理は、花芽誘導や品質向上を目的として、樹皮部分を幅数mm～1cm程度剥ぎ取る処理方法が一般的であるが、品目・品種や目的により処理時期・程度が異なる。本県では「ゴルビー」に適した処理時期・方法として左記の技術を確立させた。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30)	
果樹14	ぶどう (「サニールージュ」:施設栽培、露地栽培)	・ブドウ「サニールージュ」の果皮着色向上のための連年環状剥皮処理技術	・満開30～45日後に主幹部へ1cm程度の環状剥皮処理を行うことで着色の向上が図られ、翌年の花穂着生への影響はみられない。	作業日誌、実施写真	・産地で赤系ぶどうの着色不良が見られることから着色向上により品質向上を図るため。 ・環状剥皮処理は、花芽誘導や品質向上を目的として、樹皮部分を幅数mm～1cm程度剥ぎ取る処理方法が一般的であるが、品目・品種や目的により処理時期・程度が異なる。本県では「サニールージュ」に適した処理時期・方法として左記の技術を確立させた。	・宮崎県総合農業試験場普及技術カード(H30)	

これまでその品種・技術を入れたことのない生産者が対象となる。